

### 30【P2】 I -295

中国産マオウ属植物の研究(10) 核及び葉緑体 non-coding DNA の解析  
隆 長鋒<sup>1</sup>, ○垣内 信子<sup>1</sup>, 御影 雅幸<sup>1</sup>(<sup>1</sup>金沢大薬)

【目的】マオウ属植物は外部形態的に単純であるため種分類が困難で、中国産の植物についても未だ問題点を残している。演者らは本属植物の種分類を補助する 1 要素として DNA 塩基配列を検討した。

【材料】2001 年 7 月から 2003 年 7 月まで内モンゴル自治区、青海省、甘肅省、河北省、山西省、四川省、および新疆ウイグル自治区で採集したマオウ属植物 8 分類群 : *E. intermedia*7 検体, *E. sinica*5 検体, *E. przewalskii*8 検体, *E. equisetina*5 検体, *E. monosperma*1 検体, *E. gerardiana*1 検体, *E. likiangensis*2 検体, *E. minuta*2 検体 (以上, 中国植物誌に基づく分類) を用いた。塩基配列は核 DNA 及び葉緑体の noncoding DNA である ITS および *trnL/trnF* の各領域を解析した。

【結果および考察】ITS の解析結果から、上記 8 分類群はグループ 1 (*E. intermedia*, *E. sinica*, *E. przewalskii*)、2 (*E. equisetina*, *E. monosperma*, *E. gerardiana*)、3 (*E. likiangensis*, *E. minuta*) の 3 グループに分けられた。さらに、この 3 グループは ITS 1 のくり返し部分の特異的プライマーを用いて PCR で検出可能であった。一方、*trnL/trnF* の解析の結果、ITS では区別できなかった *E. likiangensis* と *E. minuta*, *E. intermedia* と *E. sinica* を区別することできた。これらの結果を総合的に解析し、中国産マオウの種分類と種間の近縁関係を検討した。